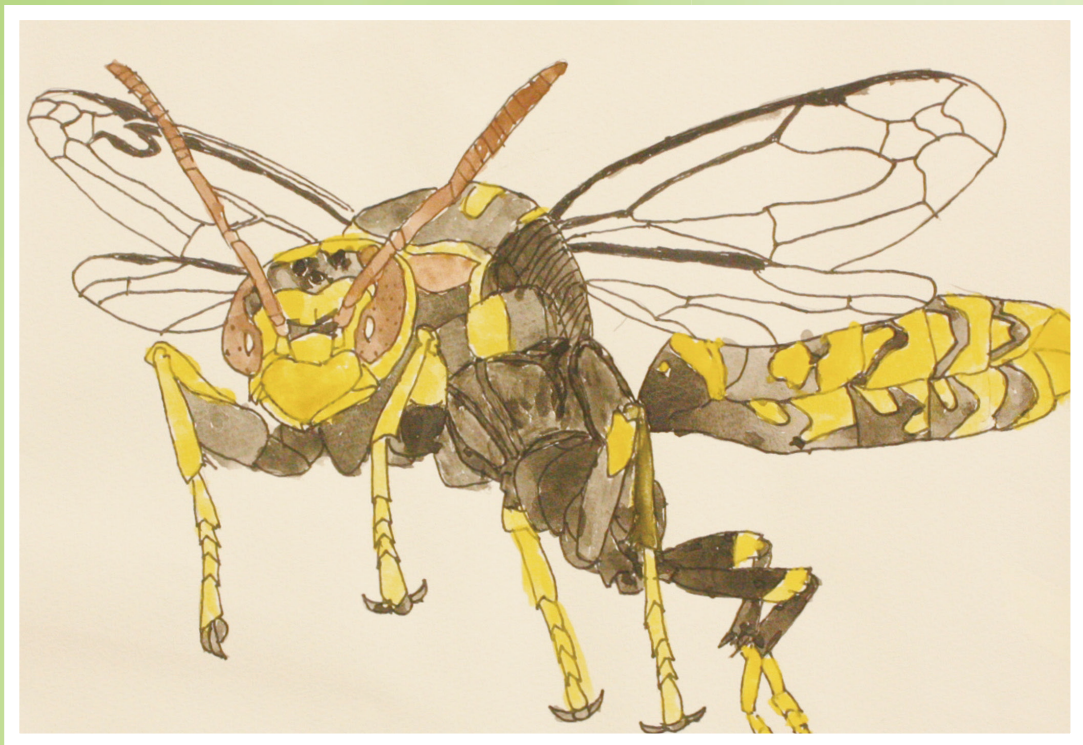


「カンパニオ！仲間とともに」

- 平成 30 年度岩手県特別支援学校体験記録集 -
第 27 集



「花を探して色んな所を飛び回るアシナガバチ（セグロ）」
学校法人カナン学園 三愛学舎 専攻科1年 小笠原 慶太

岩手県特別支援学校連絡協議会
[協力]岩手県特別支援学校PTA連合会
[主管]岩手県立一関清明支援学校



「 手 」

岩手県立宮古恵風支援学校 中学部3年 花館 健浩

※平成30年度岩手県特別支援学校体験記録集タイトル 「カンパニオ！仲間よともに」について

本記録集の表紙絵、文中の挿絵などは県内特別支援学校へ呼び掛け、応募のあった作品の中から選びました。

タイトルについては、平成25年度に気仙光陵支援学校からの応募、採用されたものを今年度も使用させていただきました。

カンパニオはラテン語で一緒にパンを分け合う人々つまり仲間という意味で英語 *company* の語源となった言葉だということです。(気仙光陵支援学校より)

目 次

「発行に寄せて」					
岩手県特別支援学校連絡協議会	会長	民部田 誠	1	
「挨拶」					
岩手県特別支援学校PTA連合会	会長	中里 修	2	
————— 体 験 記 録 —————					
「広がっていく私の心と未来」					
岩手県立盛岡聴覚支援学校	卒業生	高橋明日香さん	3	
「後輩のみなさんに伝えたいこと」					
岩手県立盛岡青松支援学校	卒業生	佐藤 真太さん	5	
「社会人としての自信」					
岩手県立盛岡峰南高等支援学校	卒業生	東根 拓己さん	7	
「挑戦」					
岩手県立久慈拓陽支援学校	卒業生	川端 南海さん	9	
「楽しい思い出がいっぱいの高校生活」					
岩手県立一関清明支援学校	卒業生	及川 一輝さん	11	
編集後記			13	

【資料】岩手県内特別支援学校一覧



「深海魚」

岩手県立釜石祥雲支援学校 高等部3年 高良 一和

発 行 に 寄 せ て

岩手県特別支援学校連絡協議会
会 長 民 部 田 誠

1975年、国際社会に対して障がい者に対する差別と不平等の是正を訴えた「障害者の権利に関する宣言」が国連総会で採択され、これを実行するために1981年を「国際障害者年」と定め、「完全参加と平等」というテーマの下、各国に取り組みを求めました。

本連絡協議会では1982年から「岩手県心身障害児就学啓発推進会議」（後に「岩手県社会参加と自立・就学啓発推進の集い」と改称）を開催し、体験発表等をおして適正就学と社会参加と自立に向けて社会啓発に取り組んできました。

本体験記録集は、大会における卒業生・保護者の体験発表に誌上発表分を加えて1992年に発刊、以来多くの方々からご支援、ご共感をいただきながら2012年の大会終了後も継続、今年で27回目の発行となりました。

この間、国内においては「障害者の権利に関する条約」（2006年、国連総会採択）の批准に関わって、「障害者基本法」の改正、「障害を理由とする差別の解消に関する法律」の制定等、「障害者の権利に関する条約」にある「インクルーシブ教育システムの構築」、「合理的配慮」の提供を具現化するための国内法の整備が進められてきました。

今年2月・3月に平昌で開催された冬季五輪・パラリンピックは、多くの人に感動を与え、本県ゆかりの9名の選手も大活躍で大会を盛り上げてくれました。パラリンピック出場選手のパブリックビューイングでは、障がいのある人もない人も共に集い、一体となって声援を送っている姿がとても印象的でした。

様々な障がいに対する認識や意識に変化が現れてきている今、かけがえのない体験、想いを綴ったこの体験記録集をおして、特別支援学校卒業生、その保護者、そして家族へのご理解、ご支援がさらに広がることを願っております。

一人でも多くの方々にお読みいただき、障がいのある人もない人も「共に学び、共に育つ教育」の推進と、お互いに人格と個性を尊重し合う「共生社会」へと繋がることを願ってやみません。

結びに、今回の体験記録集の発行にあたり、多くの方々にご協力、ご支援いただきましたことに感謝を申し上げ、発行の挨拶といたします。

「マドヨーシカ だるま」
岩手県立盛岡青松支援学校
中学部1年 生徒作品



挨拶

岩手県特別支援学校PTA連合会
会 長 中 里 修

岩手県特別支援学校PTA連合会会員の皆様、ならびに関係者の皆様には、日頃より活動に対しご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

今年も「岩手県特別支援学校体験記録集」が発行されることになりました。貴重な体験談やメッセージをお寄せいただいた皆様、誠にありがとうございました。

例年の体験記録を読みますと、楽しかった事よりも、辛い出来事の方が多く書かれているような気がします。それは実際に多かったわけではなく、心に強く残っていたためだったのかもしれませんが。勉強や友人そして大人との関係など思春期特有の悩み事やジレンマのようなものもあったでしょう。一足早く企業で職場実習を経験し、社会で働くという事の大変さや難しさを感じたこともあったでしょう。しかしその辛い出来事を自分自身の力で乗り越えたことや、友人、家族の助けを借りて乗り越えられてきた自信も力強く書かれています。その辛かった出来事をあえてもう一度思い出し、このように記録に残すことは、出来事を客観的に受け入れて、自分自身を見つめ直し、人間関係の大切さを考え、思い知る良い機会になったのではないのでしょうか。また、将来への「夢と希望」が強く語られていて、決して将来を悲観することなく辛いことを乗り越えようとする強い決意が感じられます。その決意に私自身も元気をもらい、思わず「ファイト!!」と声をかけてしまいます。保護者の方の体験談では、子供のことで悩んでいるのは自分だけでは無いんだと改めて共感しました。そして将来を心配してしまう親心に希望を与えてくれるものにもなっており、「ファイト!!」と声をかけてもらったようなあたたかい気持ちになります。

子供たちが特別支援学校を卒業した後も、地域社会の中でたくましく生きていくことは私たちの切なる願いです。以前に比べれば、障がいのある人への理解が進み、生活環境は良くなってきているかもしれませんが、しかし、まだまだ不十分なところもあり、理解されていない部分もあります。障がいのある人にとって過ごしやすい社会は、障がいのない人にとっても住みやすい社会だと思います。ぜひ一人でも多くの方にこの体験集を手にとってもらい、どの人も安心して暮らせるような環境作りや生活支援等に対する理解が進むことを願います。

最後になりましたが、本記録集発行にご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。これからも、PTA活動を通じて特別支援学校の教育環境の充実、ならびに生涯にわたる福祉の増進を図るための支援を推進して参ります。今後とも本連合会へのご支援ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



「しかけのあるかみにかごう」
岩手県立盛岡みたけ支援学校二戸分教室
小学部3年 日時 隆浩

「広がっていく私の心と未来」

岩手県立盛岡聴覚支援学校
卒業生 高橋 明日香

私は盛岡聴覚支援学校の幼稚部を卒業した後、地元の小中学校に通い、中学校卒業後高等部に入学しました。入学して1年生の4月の頃は全く手話が分からなかったし、聾の世界は狭いと思い込んでいました。そんな1年生の7月に東北地区聾学校体育大会があり、そこで私と同じ耳の聞こえない人とたくさん出会いました。一番驚いたことは、手話が早くてついていけないことでした。そこで私はできるだけ頑張って手話を学びたいと思い、学校にいるときは分からない手話を友達に聞いて覚えるように努力し、3か月後にはスムーズに手話で会話できるようになりました。聴覚障害の人たちをもっと知りたい、いろいろな人との交流を深めたいという思いから、多くの人たちと交流することを意識するようになりました。いろいろな人たちと関わると、時には人間関係がうまくいかなくなることもありましたが、それらも含めて社会に出たとき役に立つと思いました。そのうちに、少しずつ自分にとってどんな人と付き合うのがよいのか判断できるようになりました。

また、いろいろな人と出会ったおかげで考え方が少しずつ変わったような気がします。1年生の時は、まだまだ考えが浅く、相手の気持ちが分からなくて問題を起こすことがありました。その頃は、先生に対しても反抗することが多かったです。過去の自分は未熟だったなど、今、思います。人への想いが少しずつ変わってきたのは、高等部2年の時です。それは祖母が亡くなった時のことでした。その時、祖母のためにもっと自分ができることをやって祖母を助けてあげれば良かったと思ったのでした。そんなふうに感じたのは初めてでした。同じような後悔を、もう二度としたくないと思い、そのことをきっかけに、相手の気持ちを考えて行動するようになりました。

高等部専攻科を卒業し、社会人になって2年目。会社にはだいぶ慣れました。ただ、私の仕事は塗装作業ですが、シンナーの臭いがきつくて、これだけはなかなか慣れません。毎日の作業なので少し自分の体のことが心配になることがあります。私が担当しているのは車体の塗装後の磨き。ほかにも担当していますが、作業内容としてはほぼ磨きが多いです。まだコツが身につけていないので、手や腕が疲れたり、磨きすぎて角のあたりの色が落ちてしまったりすることもあるので注意して作業を進めています。また、仕上げた後のペーパーやゴミなどを見逃してしまうことがあり、クレームが発生して周りに迷惑をかけてしまうことがありました。そのため、何回も確認したり、他の人にも確認してもらったりしています。

コミュニケーションはほとんどが音声によるやりとりですが、聞き取れなくて自分にイラつくことがあります。分かったフリをして聞き流してしまうこともあります。後になって言われたことを思い出して納得することもあります。どうしても聞き取れない時は、筆談をしてもらう時もあります。相手の口の動かし方や声の高さに慣れるように努力しています。小さい頃は聞き取りも話し方もうまくできず、悩んだりしました。今は70%くらいは会話を通じるようになり、両親と小学校の聞こえの教室の先生のおかげだと感じています。

今になって、もっと国語の勉強をまじめにしておけばよかったなど後悔することがあります。なぜなら、社会人になると会話の中にいろいろな言葉が出てきて理解できないことがよくあるからです。

しかし、分からなかった言葉の意味が分かってくると楽しく思えるようになって、この頃はテレビや本の内容で気になったところはまわりの人に聞いて確かめるようになりました。

人間関係については苦勞することもあります、なんとか頑張っています。腹が立つことも時々ありますが、できるだけまんして表向きはいつもの通りに過ごしています。社会人になると付き合いも広がり、いろいろなタイプの人間がいるので仕方ないと思うようにしています。学生の頃に、先生方から人間関係のことを教えてもらい、それも今役に立っています。それでも、私はまだまだ社会人としてのマナーが分からないことが多いので、どのようにしてよいか迷ったり気になったりした時は、恥をかくことのないようにすぐに誰かに聞いて一つ一つ理解していきたくと思っています。

つらいことは沢山ありますが、なるべく考え過ぎないようにしています。つらいことを考えるより、プラスのことを考えるようにしています。世の中にはいろいろな人間がいて、同じ人間でも感じ方や考え方が違う。だから人と付き合うのは難しいけれど、そこが面白いところだとも感じます。いろいろな人と付き合うことで勉強になりますし、自分のことを深く考えることもできます。

つらいことがあっても、いつかは楽しいことがあると思って頑張りたいです。因みに私の趣味は旅行なので、楽しい旅行を実現するために働いてお金を貯めています。振り返ってみて、今までいろいろなことを教えていただいた家族や先生方や友達に、私は感謝しています。叱っていただいたことも今の自分のためだと思い出し、自分を少しずつ変えていきたいです。学校生活は本当にあつという間で、楽しいこともつらいこともありました。でも、人間関係や社会に出た時に必要なことを学んできたと思っています。

これからは、職場の仕事やさまざまな人との人間関係を通して、さらにたくさんのことを学んでいきたいと思っています。この先学生時代よりはずっと厳しい場面があると思いますが、仕事と職場の先輩方への感謝の気持ちを忘れずに頑張ろうと思います。

これからは何か一つ、私にとって今までに経験したことのない幸せになるための目標が欲しいです。そのためにはコミュニケーションが大事だと思っています。今よりもっと幸せな自分、素直な自分、優しい自分になりたいと思います。未来の自分がどう変わっていけるのか、とても楽しみです。



「 Fight! 一発 」
岩手県立気仙光陵支援学校
高等部 3年一同

「後輩のみなさんに伝えたいこと」

岩手県立盛岡青松支援学校
卒業生 佐藤真太

またこの場所（弁論大会の壇上）に立ってしまった。
中三の（弁論大会の）時、もう二度と立ちたくないと思った場所だ。
こんなはずではなかった。
とくに話すこともない。
これじゃあ「しくじり先生」になってしまう。
困った…。
でも、立派なこととは言えませんが発表を始めます。

ぼくは、平成28年の3月（高等部卒業と同時に）「みちのくみどり学園」を退園した佐藤真太です。
（平成28年）4月から「緑生園」という施設で働く訓練をしています。
僕の学園生活を振り返ると、いろいろなことがありました。
学園で生活して、嫌なこともたくさん、たくさん、たくさんありました。
行事も寝たふりをしてばっくれました。
今だから言いますが、あれは演技です。
学校もたくさんサボりました。
学校をサボるためにわざと夜おそくに寝て、朝起きられないようにしました。
その時は学校に行く時間がムダとっていましたが、今考えるとそうやっていた時間がムダでした。
ちゃんと学校に行っていれば自分の未来は変わっていたかもしれないと思うと後悔しています。
みなさんはマネしないでください。
あと、中2の時は学校で暴れて壁を壊したりしました。
ゲーム機を1台とソフトが2つ買えるほどのお金で弁償しました。
みなさんはマネしないほうがいいと思います。
いま僕は、緑生園で働くことと、ラグビーをがんばっています。
自分で言うのもなんですが、がんばっていると思います。
一日も仕事を休んでいません。
でも毎日がめんどくさいです。
毎日頑張ったとしても仕事につけるかわからないし、仕事につけても続けていけるか心配です。
ラグビーも頑張って試合に出ています。
僕のポジションはフッカーというポジションで、番号でいうと2番です。
スクラムの時は全体を支えます。
僕はスタミナがないのですぐバテます。
あとはタックルの入り方が難しいです。

正直に言いますが実はルールをよく覚えていません。

職員に「ルールを覚えていないのでどうすればいいですか」と聞いても「いつも通りガンガン行け」と答えられます。

そしてアドバイスを求めても「いつも通りガンガン行け」と言われます。

答えになっていないと思いますが、とりあえずガンガン行っています。

僕は、来年にはグループホームに入って生活し、倉庫で荷物を仕分ける仕事をしたいと思っています。

みんなに伝えたいことを話します。

まず、みなさんもまわりの人に支えられて、自分が成り立っていることをわかってほしいです。

緑生園に行くときに、職員が厳しい人ばかりだと思っていましたが、みんないい人で優しくしてくれます。

学園にいた時も、職員の優しさはわかっていましたが、変なプライドがあって認めたくなかったことがありました。

今は、支えられて生きていることがわかります。

次に、学園で生活して役に立ったことを話します。

それは、「そうじ」です。

小さいときは、ホールそうじや、部屋のそうじを無理やりやらされていましたが、高校ぐらいからお手伝いでそうじをやってきました。

やり方や考え方など今の生活でとても役に立っています。

最後に、僕が言うのもなんですが、何事もやる前からできないと言ってやらなければ何もできません。

僕も施設に閉じこもっていないで、外にもっと出ていけばよかったと思っています。

いまさら後悔しても遅いですが、みなさんにわかってほしいことをお話ししました。

嫌なことはたくさんあるかもしれないけど、むかつくことを我慢したり、ストレスを上手におさえて頑張ってください。

これで僕のしくじりそうになった話を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

※「社会福祉法人岩手愛児会 みちのくこども療育センター
牧草会第47回弁論大会（平成29年11月11日）」において
特別体験発表として発表されたものです。

※（ ）内は、原稿にする際に補足した部分です。



「 RUN 」

岩手県立久慈拓陽支援学校
高等部共同作品

「社会人としての自信」

岩手県立盛岡峰南高等支援学校

卒業生 東根 拓己

私は、3年前に盛岡峰南高等支援学校を卒業し、物流関係の会社に就職しました。主に商品の積み込み作業を行っています。

この職場に就職したきっかけは、高等部3年生の時の現場実習です。初めは、私にできるのかという不安と緊張でいっぱいでしたが、職場の皆様がとても優しく丁寧に仕事を教えてくださり、安心して働くことができました。私は学生時代、行動がゆっくりで周囲に迷惑をかけてしまうことがよくありました。また、返事や挨拶の声が小さく、いつも指摘されていましたがなかなか直すことができませんでした。しかし、現在の職場で実習を重ねていくうちに、どうして素早く動かなければならないか、どうして大きな声で挨拶や返事をしなければならないか理由がわかりました。実習の時に経験させていただいた仕事は、発泡スチロールの箱の汚れを確認したり拭き取ったりしながらベルトコンベアに流す作業でした。また、ベルトコンベアに流す発泡スチロールの箱がなくなる前に台車ごと運んでこなければならず、周囲の状況を見ながら行動しなければなりません。ベルトコンベアも止まることなく動いているので、私がマイペースで動いていると一緒に仕事をしている人に迷惑がかかってしまいました。改善したいという気持ちをもって少しずつですが、スピードアップすることができるようになったときは嬉しかったです。今では、職場の皆さんに合わせてテキパキ動くことができるようになりました。また、職場は機械音が大きく、はっきり大きな声で話さない相手には伝わりません。私の職場は仕事の前に朝礼があり、職場の皆さんと声出しを行っています。実習の時からそれを経験させていただき、挨拶や返事をするのが気持ちよく、当たり前のことになりました。できることが増えてとても嬉しかったです。

私は盛岡峰南高等支援学校で、加工生産科に所属し、窯業を通して、使う人のことを考えながら丁寧に製品を作ることの大切さを学びました。また、よい製品を作るために集中して作業する力を身に付けることができました。現在の職場で働いていて感じることは、商品を受け取るお客様への思いやりをもって仕事をするのが、学校で学んだ「使う人のことを考えながら丁寧に製品を作る」ということに共通していることです。就職して3年が経ち、振り返ってみると、学校で学んだ一つ一つが様々な場面で生かされていることに気づきます。私が働き続けられるのは、学校での様々な経験が役に立っていることと職場の雰囲気がよく、周りの皆様がとても優しく接して下さること、いい関係が築けているからだと思います。

今、私は、一日の仕事をきちんと終えて退勤するときにはいつも仕事をやり遂げたという充実感でいっぱいになります。また、後輩が実習をしに来ることもあり、懐かしい先生方にお会いし、「がんばっているね」と声をかけていただくことがとても励みになっています。仕事にも環境にも慣れた今、私の次の目標は、自動車運転免許を取得することと、様々な場所に旅行に行くことです。そ

のためにも、私は自信をもって今の職場で働き続けていきたいです。そして、これまで私に関わってくださった方々や職場の皆様への、感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいです。



「 夏をむかえる春 」
岩手県立盛岡聴覚支援学校
小学部5年 平賀 大河



「 今を描く〜自画像〜 」
岩手県立盛岡峰南高等支援学校
農産技術科2年 芦名澤 拓音
生活科学科2年 生徒
流通・サービス科2年 高橋 実果
加工生産科2年 田中 頼輝

「挑戦」

岩手県立久慈拓陽支援学校
卒業生 川 端 南 海

私は、高等部から久慈拓陽支援学校に入学しました。

中学までは人とコミュニケーションをとるのが苦手で、全く会話をするのができませんでした。久慈拓陽支援学校に入った頃も、話すのが苦手だったので、ホワイトボードを使って受け答えをしていました。学校にも慣れ、自分を変えていくために2年生の頃からホワイトボードを使わずに会話をするようになりました。

学校生活で一番思い出に残っていることは、3年生の時に縫工班の班長をやったことです。縫工班では、ミシンを使った縫製作業や藍染めなどの作業をやりました。私は大きな声を出すのが苦手だったので、班長として休憩時間の声かけや始めと終わりの集会の進行をすることが最も大変でした。しかし、それまで自分からはあまり進んでやらないことができたことは、良い経験になりました。

私にとって大きな挑戦になったことは、2年生の時に、アビリンピック縫製部門に出場したことです。先生から話を聞いたときに興味をもち、自分の技術でどこまでできるか挑戦してみたいと思いました。練習を始めた頃は、課題のエプロンを作るのに一日かかってしまいましたが、夏休み期間中も学校へ行ったり家でも練習をしたりして、ぎりぎりでしたが指定時間内に作れるようになりました。アビリンピック当日は、緊張して時計を見間違えて、指定時間よりも30分以上はやくできてしまいました。練習の時にはしなかった細かいミスをしてしまったことが少し心残りになってしまいましたが、金賞をとることができて、ほっとしました。

3年生になって、今度は全国大会へ出場するために、県大会にまた出ることにしました。本番では2年生の時にしたミスをしないように気をつけて作り、2年連続の金賞をとることができました。目立ったミスをすることなく冷静に作ることができてよかったです。

全国大会に向けての練習は、課題のエプロンの作り方が変わり、覚えるのが大変でした。母が縫製関係の仕事に就いていたので、母や先生と作り方の手順を相談して練習をしました。縫製部門は、全国から16名出場していました。いつもと違う環境で、最も緊張しました。大きなミスをしてしまうこともありましたが、時間内に直しをして仕上げるのができて、良かったです。あまり自信がなかったので、成績発表で自分の名前が呼ばれたときは驚きました。出せる力は出せたと思うので、銅賞がとれてうれしかったです。

それをきっかけに、卒業後の進路は身につけたミシンの技術を活かせる仕事に就きたいと思いました。いろいろな場所で体験実習をしてみて、私は「ハックの家」で裂き織りの布を使ったバッグを作る仕事をしたいと思いました。もっとたくさんの技術を学びたかったからです。卒業して1年になりますが、今は「ハックの家」で注文を受けてバッグを作ったりポーチなどの小物類を作ったりしています。バッグ作りはまだまだ覚える技術がたくさんあり、覚えるのは大変ですが、やりがいがあります。

楽しいです。

私が今後挑戦してみたいことは、自分の作ったアクセサリーを通販サイトで販売することです。私は昔から自分のつくった物を売ることが夢だったので、最近minneなどのことを知って、自分もやってみたいと思いました。今はまだ模索中ですが、いつかできたら、うれしいです。



「 TRY スポーツ 」

岩手県立前沢明峰支援学校

高等部3年 鈴木 庸介



「 ビー玉アート ～あじさいのある風景～ 」

岩手県立盛岡視覚支援学校

小学部1・3・5年共同作品

「楽しい思い出がいっぱいの高校生活」

岩手県立一関清明支援学校
卒業生 及川 一輝

僕は、学校まで自家用車とスクールバスを乗り継いで約1時間半かかる道のりを3年間通いました。朝早く起きなければ間に合わないので、疲れて時々バスで眠ることもありました。通学はとても大変でしたが、それを苦勞とも感じないほどとても充実した楽しい3年間でした。

毎日1時間目は「日生」の時間で、ずっとマラソンでした。仕事をしてみて分かったことは、やはり仕事は体力だということ。体力づくりのマラソンは大切でした。

特別支援学校では将来の就労に向けての取り組みがあり、それが一番大事だったように思います。農耕環境班、木工班、調理班などの作業学習がカリキュラムにありました。木工班所属のときには、ベンチや花壇の柵を作りました。文化祭の時、「一輝たちが一生懸命作ったんだね。上手にできているね。」と言って、母が買ってくれました。今でも、祖母がそのベンチに座って庭を眺めています。家の花壇には僕が作った柵があり、花壇の花を見ると、いつも当時を懐かしく思い出しています。

1年生から実習もありました。1年生のときは校内実習、2年生からは、現場実習がありました。初めは、学校近くの就労継続支援B型のルンルンでお世話になりました。お菓子の折箱の組み立てなどの作業でした。時間いっぱい働くことの大変さがわかりました。次からは、家から近くの就労継続型支援B型の蓬莱館で実習をしました。様々な作業を体験させて頂きました。食品科パン部門では、洗い方や生地丸め方などをしました。食器洗いでは、初めは、食器1つ洗うのにもかなりの時間がかかり、迷惑ばかりかけたように思います。今でもあまり進歩はないかもしれませんが、その経験を活かし(?)、現在に至ります。

小・中学校のときは特別支援学級に在籍でしたが、今思うと、学校生活は少し(本音を言えば、かなり)つらかったように思います。何かと配慮はしていただいたとは思いますが、楽しいことばかりではなく、やはり心無い言葉を投げつけられることもあり悲しくなるときもあったからです。でも、高校では違いました。やっと自分の居場所が見つかった感じがしました。先生方はもちろんですが、友達もみんなやさしく接してくれて、本当に楽しい時間を過ごすことができました。とても充実した3年間でした。だから、卒業式が近づくにつれて、悲しくなったことを覚えています。成人式するとき、久しぶりに高校の同級生に会えたときは、懐かしくとてもうれしかったです。

高校を卒業後は、蓬莱館でお世話になっています。今年で4年目になりました。僕は、2号館勤務です。ここでは、パンや惣菜などを作って販売しています。僕は、惣菜を作る補助をしています。今では、そばのつゆ作りも任せられています。正確な計量が僕の自慢です。月に数回、蓬莱館が出店しているスーパーのフードコート『ラッキー』で接客もします。初めは慣れなくて大変でした。お客様にはっきり用件を伝えることができなかつたし、失敗も多かったです。でも、慣れるに従って、だんだん楽しくなってきました。一日の売り上げが目標を達成したときは、みんなで喜び合います。

一番うれしかったことは、障がいのある人たちのパン・菓子作りの全国大会「第7回チャレンジドカップ」という大会に出場したことです。「しあわせ包子（パオジ）」というとても素敵なネーミングの中華まんを作りました。大会の前には、何度も練習しました。本番はとても緊張しましたが、目標にしていた大賞をとれて最高でした。

今の楽しみはスポーツをすることです。今年から障がい者のソフトボールチームに加入し、活動しています。まだ下手ですが、もっと練習し上手になって選手になりたいです。

それから、運転免許の取得にも挑戦したいです。運転免許の取得については、家族の中でも賛成派と反対派がいます。賛成派は、「こんな田舎暮らしだから、せめて病院とスーパーぐらいには自分で行けるようにならないと。」と言います。反対派は、「交通事故を起こしたら大変だよ。みんなに迷惑がかかるよ。」と言います。色々な意見が飛び交っていますが、みんな僕のことを心配してくれているのだと思います。今まで心配や迷惑をかけた分、親が年を取って車の運転ができなくなったら、今度は僕が病院に連れて行ってあげたいなあと思っています。

これからも色々なことがあると思います。楽しことだけではなく、つらいこともたくさんあると思います。そんなときは、高校の卒業アルバムを開いて楽しかったあの3年間を思い出し、『みんなも頑張っているのだから、僕も頑張ろう。』と思って、また、笑顔でがんばりたいです。



「 Try スポーツ 」

岩手県立花巻清風支援学校

高等部3年 小山 龍太

【編集後記】

今年度も「カンパニオ!仲間とともに」―岩手県特別支援学校体験記録集―を発刊することができました。5校の特別支援学校卒業生さんから貴重な体験を文章にいただきました。支援学校に入学して仲間と出会い、自分の居場所と感じたこと、多くの人たちと関わる中で学んだこと、在学中の作業学習や実習の経験が現在に生きていること。卒業後、職場で働いている様子、次の目標や夢をもち、挑戦しようとしている力強い文章もありました。後輩たち、家族のみなさん、そして教職員の励みになります。ありがとうございました。各支援学校の児童生徒の皆様には心温まる作品を提供していただき、表紙や各ページを飾ることができました。心より感謝申し上げます。

当記録集の発刊にあたりましては、公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部様、いわてひまわり号基金様に、長年にわたり物心両面からご支援を頂いております。改めて深く感謝申し上げます。

本校では、様々な障がいのある幼児児童生徒が同じ学び舎で学んでいます。また、千厩小学校、中学校にある分教室では、小学生、中学生と同じ学び舎で毎日学んでいます。日常的に「共に学び共に育つ」姿があります。

昨年（平成29年）告示された新学習指導要領も「共生社会の形成」という理念にもとづいたものであり、インクルーシブ教育システム構築をさらに推し進める内容になっています。この体験記録集が多くの人の目にとり、共生社会が広がり、深まることを祈念し、編集後記といたします。

岩手県特別支援学校体験記録集作成事務局
岩手県立一関清明支援学校
校長 稲邊 宣彦



「ひまわり」

岩手県立盛岡みたけ支援学校奥中山校
中学部2年 端坂 夢優



「盛岡市内合同運動会」

岩手大学教育学部附属特別支援学校
中学部2年 細川 樹

【資料】

岩手県内特別支援学校一覧（平成30年4月1日現在）

※電話・FAX兼用

学校名	対象障がい	住所	電話/FAX	幼	小	中	高	専	訪問	舎
盛岡視覚支援学校 もりおかしかくしえんがっこう	視覚	〒020-0061 盛岡市北山1-10-1	(019)624-2986 FAX 624-3164	○	○	○	○	○	○	○
盛岡聴覚支援学校 もりおかがきょうかくしえんがっこう	聴覚	〒020-0403 盛岡市乙部4-78-2	(019)696-2582 FAX 696-5952	○	○	○	○	○	○	○
盛岡となん支援学校 もりおかしえんがっこう	肢体不自由	〒028-3602 紫波郡矢巾町大字藤沢2-29-1	(019)601-2227 FAX 698-4352	-	○	○	○	-	○	○
盛岡青松支援学校 もりおかせいしよしえんがっこう	病弱	〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷11-25	(019)661-5125 FAX 661-5170	-	○	○	○	-	○	-
もりおかこども分教室（もりおかこども病院内）				-	○	○	○	-	-	-
盛岡降南高等支援学校 もりおかほりなんこうとうしえんがっこう	知的	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-152	(019)639-8515 FAX 639-8517	-	-	-	○	-	-	○
盛岡みたけ支援学校（小中学部） もりおかしえんがっこう		〒020-0633 滝沢市穴口218-4	(019)641-0789 FAX 641-8040	-	○	○	-	-	○	-
高等部校舎		〒020-0133 盛岡市青山1-25-29	(019)645-2188 FAX 645-7301	-	-	-	○	-	○	-
二戸分教室小学部(石切所小学校内)	知的	〒028-6103 二戸市石切所字田尻平4	(0195)23-9633※	-	○	-	-	-	-	-
二戸分教室中学部(福岡中学校内)		〒028-6101 二戸市福岡字下川又22-1	(0195)23-5507※	-	-	○	-	-	-	-
二戸分教室高等部(福岡工業高校内)		〒028-6103 二戸市石切所字火行塚2-1	(0195)23-3722※	-	-	-	○	-	-	-
盛岡みたけ支援学校奥中山校 もりおかしえんがっこうおくなかみやまごう	知的 肢体不自由	〒028-5134 二戸郡一戸町奥中山字西田子1054-1	(0195)35-3036 FAX 35-3883	-	○	○	-	-	○	-
花巻清風支援学校 はなまきせいふうしえんがっこう	知的 肢体不自由	〒025-0037 花巻市太田27-207-4	(0198)28-2421 FAX 28-2089	-	○	○	○	-	○	○
北上分教室(県立中部病院内)	病弱	〒024-8507 北上市村崎野17-10	(0197)68-2091※	-	○	○	-	-	-	-
北上みなみ分教室小学部(南小学校内)	知的	〒024-0051 北上市相去町葛西壇12-2	(0197)72-5910※	-	○	-	-	-	-	-
北上みなみ分教室中学部(南中学校内)	知的	〒024-0051 北上市相去町滝の沢7-2	(0197)72-5920※	-	-	○	-	-	-	-
遠野分教室小学部(遠野小学校内)	知的	〒028-0515 遠野市東館町11-28	(0198)62-3351※	-	○	-	-	-	-	-
遠野分教室中学部(遠野中学校内)	知的	〒028-0541 遠野市松崎町白岩11-30	(0198)62-2211 FAX 62-2239	-	-	○	-	-	-	-

	学 校 名	対 象 障 がい	住 所	電 話 / FAX	幼	小	中	高	専	訪 問 舎
9	前沢明峰支援学校 （いちのたまきせいめい）	知的 肢体不自由	〒029-4208 奥州市前沢字田畠18-1	(0197)56-6707 FAX 56-5967	-	○	○	○	-	○
10	一関清明支援学校 （いちのたまきせいめい）	聴覚・病弱 知的 肢体不自由	〒021-0041 一関市赤荻字上台96-5	(0191)33-1600 FAX 33-1601	○ 聴	○	○	○	-	-
	山目校舎	病弱・知的 肢体不自由	〒021-0056 一関市山目字泥田山下48-12	(0191)25-3210 FAX 25-2770	-	○	-	-	-	○
	あすなろ分教室 （独立行政法人国立病院機構岩手病院内）	病弱	〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場10-2	(0191)53-2275 FAX 34-4121	-	○	-	-	-	-
11	千厩分教室小学部(千厩小学校内)	知的	〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場195-5	(0191)53-3181※	-	-	○	-	-	-
	千厩分教室中学部(千厩中学校内)	知的	〒022-0006 大船渡市立根町字宮田33-3	(0192)27-8500 FAX 27-8501	-	○	○	○	-	○
12	気仙光陵支援学校 （かまいししょうりやうせいせん）	肢体不自由	〒026-0053 釜石市定内町4-9-5	(0193)23-0663 FAX 23-0679	-	○	○	-	-	○
	釜石祥雲支援学校 （かまいししょううんせいせん）	病弱・知的 肢体不自由	〒026-0055 釜石市甲子町10-614-1	(0193)25-3030 FAX 25-3036	-	-	-	○	-	-
	高等部校舎(釜石高校内)	病弱	〒026-0053 釜石市定内町4-7-1	(0193)23-0663 FAX 23-0679	-	○	○	○	-	-
13	しゃくなげ分教室 （独立行政法人国立病院機構釜石病院内）	知的	〒027-0097 宮古市崎山5-88	(0193)63-0400 FAX 64-3617	-	○	○	○	-	○
14	宮古恵風支援学校 （みやこけいふうせいせん）	肢体不自由	〒028-7801 久慈市侍浜町堀切10-56-46	(0194)58-3004 FAX 58-3660	-	○	○	○	-	○
15	久慈拓陽支援学校 （いひでたくやうせいせん）	知的 肢体不自由	〒020-0824 盛岡市東安庭3-4-20	(019)651-9002 FAX 622-3822	幼児 教室	○	○	○	-	-
16	岩手大学教育学部附属特別支援学校 （いわてだいがくまなびがくぶふぞくとくべつせいせん）	知的	〒028-5133 二戸郡一戸町中山字軽井沢49-33	(0195)35-2231 FAX 35-2781	-	-	-	○	○	-

相談を希望される方のために！お子様の療育や就学、将来の進路等の相談に応じます。いつでもご連絡ください。

岩手県教育委員会事務局 学校教育課 特別支援教育担当	019-629-6143 (直通)	岩手県宮古児童相談所	0193-62-4059
岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当	0198-27-2821 (直通) 0198-27-2473(コスモスダイヤル)	岩手県一関児童相談所	0191-21-0560
岩手県福祉総合相談センター 児童女性部児童相談課	019-629-9604 019-629-9609	岩手県発達障がい者支援センター (岩手県立療育センター内)	019-601-3203



「 *スライムが あらわれた！ 」

岩手県立一関清明支援学校 高等部 生徒作品

「カンパニオ！仲間よともに」

—平成30年度岩手県特別支援学校体験記録集— 第27集

発行 平成30年11月

発行者 岩手県特別支援学校連絡協議会

会長 民部田 誠 (岩手県立盛岡視覚支援学校長)

〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目10番1号

TEL 019-624-2986

編集 岩手県立一関清明支援学校

校長 稲邊 宣彦 他作成事務局職員一同

〒021-0041 岩手県一関市赤荻字上台96-5

TEL 0191-33-1600

協賛 公益財団法人 日本教育公務員弘済会岩手支部

いわてひまわり号基金

印刷・製本 一関ワークキャンパス



「 未来につながる廊下 」

岩手県立盛岡となん支援学校 小学部6年 秋本 尚希